

平成29事業年度

事業報告書

自：平成29年4月 1日

至：平成30年3月31日

国立大学法人鹿児島大学

目 次

I	はじめに	1
II	基本情報	
	1. 目標	9
	2. 業務内容	9
	3. 沿革	10
	4. 設立に係る根拠法	11
	5. 主務大臣（主務省所管課）	11
	6. 組織図	12
	7. 事務所の所在地	13
	8. 資本金の額	13
	9. 在席する学生の数	13
	10. 役員の状況	13
	11. 教職員の状況	15
III	財務諸表の要約	
	1. 貸借対照表	15
	2. 損益計算書	15
	3. キャッシュ・フロー計算書	16
	4. 国立大学法人等業務実施コスト計算書	16
	5. 財務情報	17
IV	事業に関する説明	21
V	その他事業に関する事項	
	1. 予算、収支計画及び資金計画	30
	2. 短期借入れの概要	30
	3. 運営費交付金債務及び当期振替額の明細	30
別紙	財務諸表の科目	33

国立大学法人鹿児島大学事業報告書

「はじめに」

鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、アジア・太平洋の中の鹿児島という地理的特性を踏まえ、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。

【平成29年度の主な取組事項等】

(1) 教育に関する取組状況

全学的な学位の質保証に関する取組

① 「総合教育機構」の設置と学術研究院制度の推進

共通教育のみならず学士課程全体の教育の質保証を目的として、平成29年度より高等教育研究開発センター、共通教育センター、アドミッションセンター、グローバルセンターの4センターからなる「総合教育機構」を設置し、新規採用や学内異動により共通教育センターの専任教員を31名、高等教育研究開発センターの専任教員を5名に増員した。また、学術研究院制度（全教員を学長の下に一元管理するため平成27年度に創設）に基づき、学内異動で共通教育センター所属となった教員は、専門教育の担当も兼務していたため、専門教育でも全学支援体制の運用を開始した。

② 学部横断型「地域人材育成プラットフォーム」の運用開始

平成29年度より、共通教育科目と専門教育科目の双方から成り、学生は所属学部以外の学部専門教育科目の受講も前提とした全20単位から成る鹿児島大学独自の学部横断型の教育枠組みである「地域人材育成プラットフォーム」の運用を開始した。今年度はこの枠組みに基づき、地元就業を目的とした人材育成を行う「かごしまキャリア教育プログラム」と鹿児島という地域が有する環境や伝統工芸品等様々な資源に対する理解を深める「かごしま地域リサーチ・プログラム」を稼働させた。プラットフォームの基盤をなす必修科目である「大学と地域」においては、前期に鹿児島県知事、後期に副知事による講義（各1回）を開講し、それ以外にも多数の自治体職員の参加を得、学生の地域マインドの醸成を図った。また、プログラムのスタートアップ科目の受講者数は、2つのプログラムを併せて計155名であった。さらに、総合教育機構においてプログラムのさらなる拡充に向けた検討を行い、平成30年度より「かごしまグローバル教育プログラム」をスタートさせることを決定した。

③ 共通教育カリキュラムの充実

共通教育カリキュラムについて、必修科目群を中心に共通教育の教育目標と各科目の教育目標との関連性を把握できる一覧表を作成した。また、学び方の特徴や自主自律的に学び続けるための基盤となる思考法や学習技術を身につけるための主要な科目である「初年次セミナー」については、学びの質向上を図るためにルーブリックの検証を行い、3つの観点による評価指標と水準を盛り込んだものに改善した。さらに、初年次セミナーの教育効果を高めるためにアクティブラーニンググループを整備するとともに、学習支援システムを導入し、平成30年度からe-ポートフォリオを活用できるよう操作説明会の開催や一部の授業でのプレ運用を開始した。

④ 異文化理解に関する学修機会の拡充

外国語の活用能力を高めたい意欲的な学生を対象に、正課授業外に外国語学習や異文化交流ができる場を提供するため、10月より5カ国語（英語、仏語、中国語、韓国語、イタリア語）について学べる外国語サロン（LOL: Language Out Loud）を開設、試行的に運用を開始し、12月迄に延べ847名に対してネイティブな言語、異文化に触れる機会を提供した。

また、「異文化理解入門」の受講者1,988名を対象に授業アンケートを実施し、得ら

